



右舷灯

船の世界でも「似た機能をもっているが、あくまで背景も、船の動きも、与えられた数学モデルの中での世界だが、デジタルツインでは実際に運航されている船上の生データも使われる」という想像がしやすいかもしれない。

かつては船の運航において、船長がすべてを判断して責任をもちっており、沈む船と一緒に船情報の交換に留まらずに、臨場感や危機感の共有さえもできるようになる。

そしてデジタルツインでは、実際の航海中の様々なデータに基づいてリスクを分析し、さらにシミュレーションによって次に起こる危険の予知も可能になる。ヒューマンエラーに基づく海難の減少が期待される。

船の世界でも「デジタルツイン」という言葉をよく耳にするようになった。ツインは双子の意味であり、実社会における現実の世界を、バーチャルのデジタル世界にもうひとつ作り、それによって現象をよりよく見て理解しようというもので、仮想空間において、ほぼリアルタイムでいろいろなシミュレーション

デジタルツイン

長も沈むという悲惨な事例もあったというが、船と陸との通信手段が発達して、陸上でも船の情報共有できるようになって、判断も責任も、船と陸上とが協調して行うことが国際海事機関の国際法（ISMコード）で義務付けられている。

例えば、船の世界では、実際に航海している船と同じ船がバーチャル空間にも現れ、海上の船舶管理会社でも、実際に海上にいる船員とほぼ同じ情報が得られ、海上の疑似体験もできる。これまでも操船シミュレータも

高度に電子化された航海機